



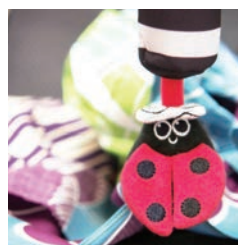
ロンドン在住の日本人ファッションデザイナーがいわき市に1ヶ月滞在して、子どもたちと布地から洋服を作り上げ、最後はファッションショーで締めくくりました。そして2013年には、ニューヨークで福島県人会の人たちと一緒にイベントを開催しました。福島で活動を継続している人が日本からニューヨークに来て話すことはめったにないとのことで、喜んで頂けました。

末永:今までやってきたどのプロジェクトも、いわき市の方はもちろん、市外の方々も多く関わっていただきました。市外の方には、私たちの活動を通じて、いわき市に興味を持ってもらえたらいいなと思っています。

宮本:広報手段は、HPやブログ、ツイッター、フェイスブック等を活用しています。いわき市は末永さんに任せて、私は市外に向けて発信する役割です。また、私は高校を卒業してからいわき市を出てしまい、知り合いも少なかったため、覚えてもらうために、活動当初は金髪にもしました(笑)。日々の積み重ねで、活動を応援して下さる人が増えたように思います。

「今日が一番たのしい」と思って生きてます

宮本:MUSUBUの活動に関しては、楽しめなくなったらやめようと末永さんと話しています。楽しそうとか、面白そうというのがMUSUBUのコンセプトです。震災が無ければ、こんなに地元と関わることは一生無かったと思います。単純に、もっといわき市でいろんなことを起こしたり、何かやれる人が増えたりして、「いわき市って面白いね」と言ってもらえるまちになっていけばいいなと思います。



また、磨けば光るようなものが沢山あるので、そういうものを発信していきたいです。中之作プロジェクトさんも、建築家が専門を活かして古民家再生などを行っています。古い物に対して感情や思い入れがあるのだと思います。

震災によって失ったものは大きいけれど、自分に来ること、「MUSUBU」として出来ることは何なのか、何があったら楽しくなるかをいつも考えています。

希望が必要だった

末永:エシカフェを始めて1年ちょっと経った頃に震災が起きました。地域の人たちとつながり始めていた頃でしたが、MUSUBUの活動を通してさらに人がつながることで生まれるエネルギーを感じました。私事ですが、昨年子供が生まれたので、また新たな広がりをもって活動していけたらいいなと思っています。

宮本:震災後に本当に沢山の方と出会いました。出会ったのが末永さんじゃなかったら、こんなに続けていなかったと思います。意識していたわけではないですが、「MUSUBU」で活動することが、自分たちにとってひとつの希望になっていたような気がします。今後、形が変わっても活動を続け、色々なものを結んでいけたらと思います。